

## オムニパーク（脳槽・脊髄用）の相互作用

### (1) 併用禁忌とその理由

該当しない

### (2) 併用注意とその理由

3. 相互作用		
併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
<b>ビグアナイド系糖尿病用薬</b> メトホルミン塩酸塩、 フホルミン塩酸塩等	乳酸アシドーシスがあらわれることがある。本剤を使用する場合には、ビグアナイド系糖尿病用薬の投与を一時的に中止するなど適切な処置を行う。	ヨード造影剤の投与後に腎機能低下があらわれた場合、ビグアナイド系糖尿病用薬の腎排泄が減少し、血中濃度が上昇すると考えられている。
<b>フェノチアジン系薬剤等の抗精神病薬</b>	併用により、痙攣発作発現の可能性が増大するとの報告があるので注意し、少なくとも検査 48 時間前から検査後 12 時間は抗精神病薬の投与を中止する。痙攣発作が発現した場合には、フェノバルビタール等バルビツール酸誘導体又はジアゼパム等を投与する。	併用により、痙攣閾値を低下させると考えられている。

#### 解説：

#### ビグアナイド系糖尿病用薬

ビグアナイド系糖尿病用薬の主たる排泄経路は腎臓であり、腎障害時には同薬の排泄が遅延し、血中濃度が高くなるため、副作用として乳酸アシドーシスが起る危険性が増大する。乳酸アシドーシスの初期症状としては、悪心、嘔吐、下痢等がみられ、重症化した場合には血圧低下、低体温、不整脈、呼吸不全を伴い、意識障害をきたす。ヨード造影剤もまた、腎排泄型の薬剤であり、特に腎障害をもつ患者や糖尿病患者等に血管内投与を行った場合には、腎機能低下あるいは急性腎障害が起こる可能性がある。

したがって、両薬剤の併用により乳酸アシドーシスが起る危険性が増大すると考えられている。

#### フェノチアジン系薬剤等の抗精神病薬

フェノチアジン誘導体は痙攣発作の閾値を下げるので、本剤と同時に投与しないこと。痙攣閾値を下げる薬物としては他に MAO 阻害薬、三環系抗うつ薬、中枢神経刺激薬、及び向精神薬が考えられる。これらの薬物は本剤による検査前 48 時間及び検査後 12 時間は少なくとも投与しないこと。